

たのしいコンピュータ プログラミング



君にもできる
シューティングゲーム



木更津高専 情報工学科
1日体験入学

目次

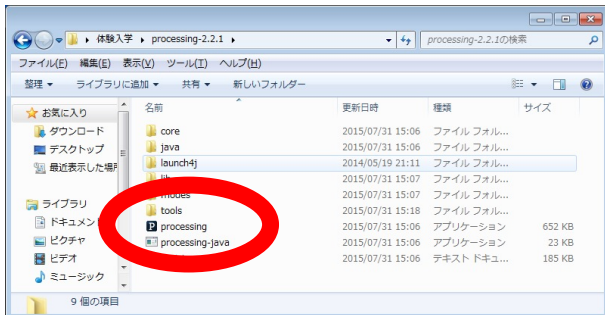
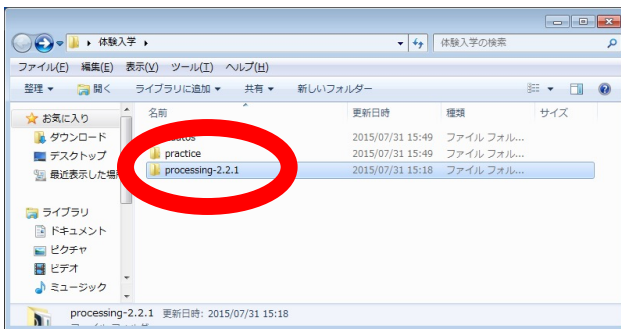
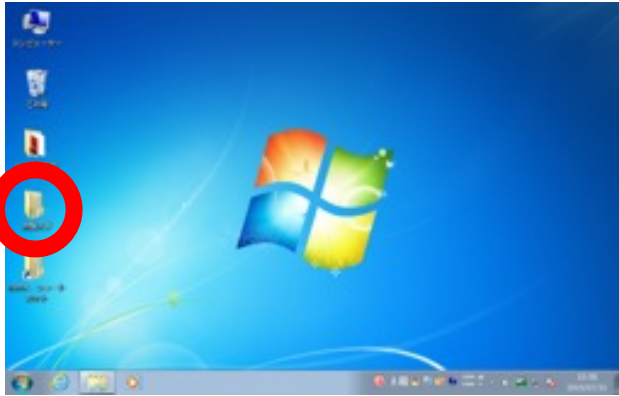
1. ゲームで遊んでみよう
2. プログラミングを体験しよう
 - Processingの起動
 - 四角形を表示, 座標系の説明
 - 変数の説明
 - 画像の表示
3. プログラミングに慣れよう
 - 画像を動かす
 - if文の説明
4. 簡単シューティングゲームを作ってみよう
 - 弾を打つ
 - 敵の出現
 - 敵と弾の当たり判定
5. 本格シューティングゲームを改造しよう

付録

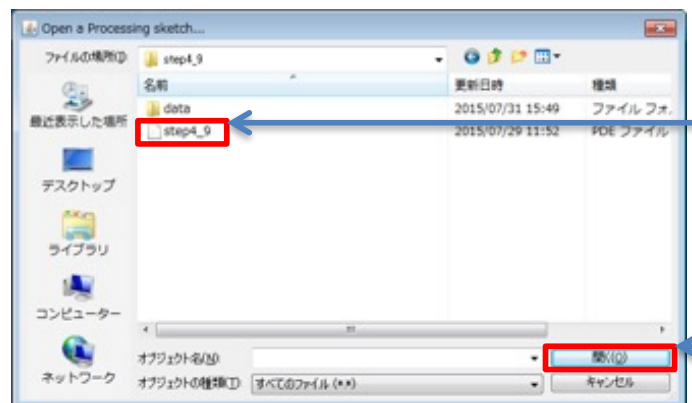
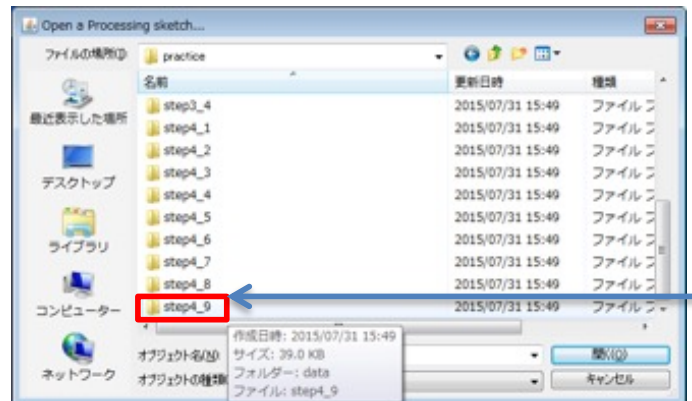
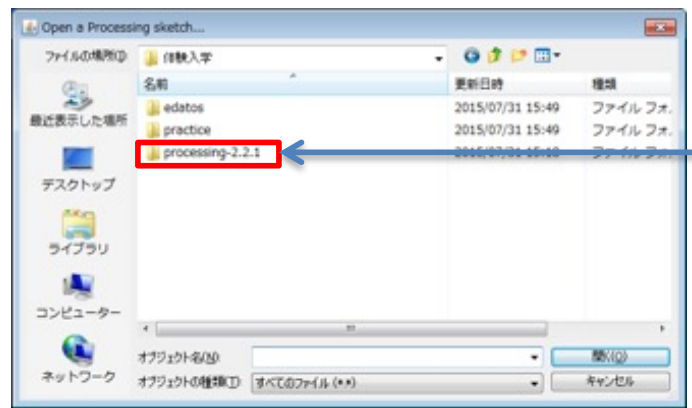
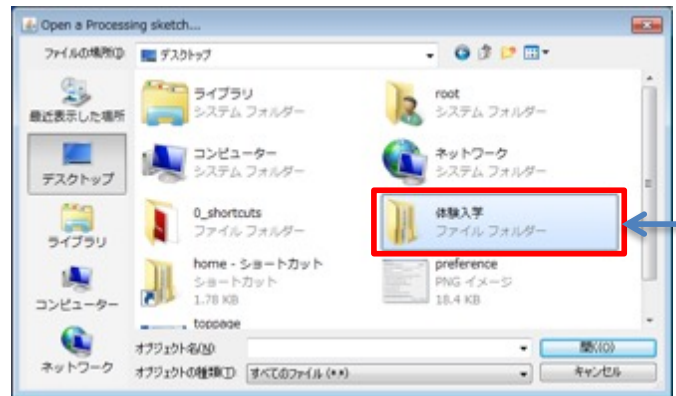
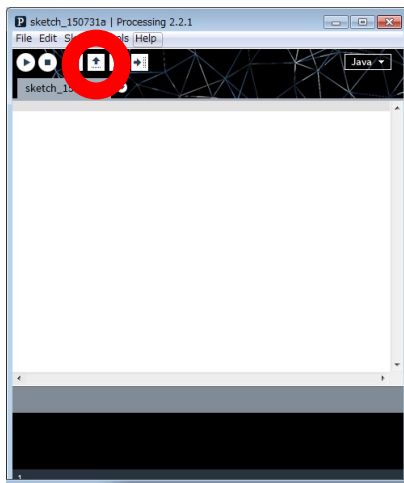
- Processingのインストール方法の説明
- サンプルプログラムの紹介

1. ゲームで遊んでみよう！

まず，Processingを起動する。



Processingが起動！次にゲームのファイルを開こう。

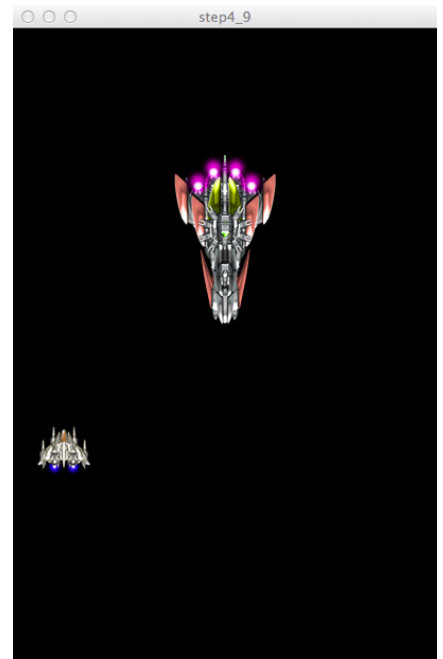


プログラムが開いたら、実行して遊んでみよう。

ここを
クリック



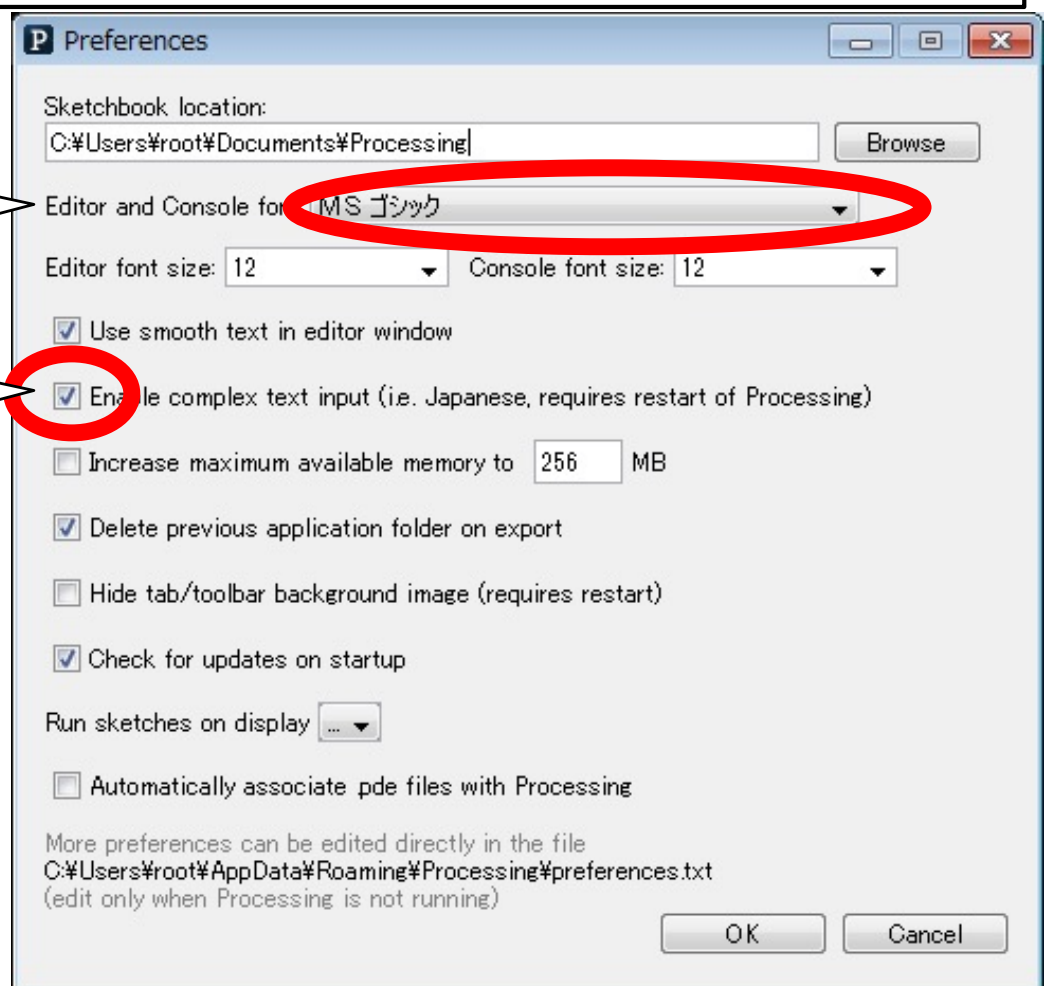
するとゲームが起動！



日本語の設定を行う

MS ゴシック
を選択

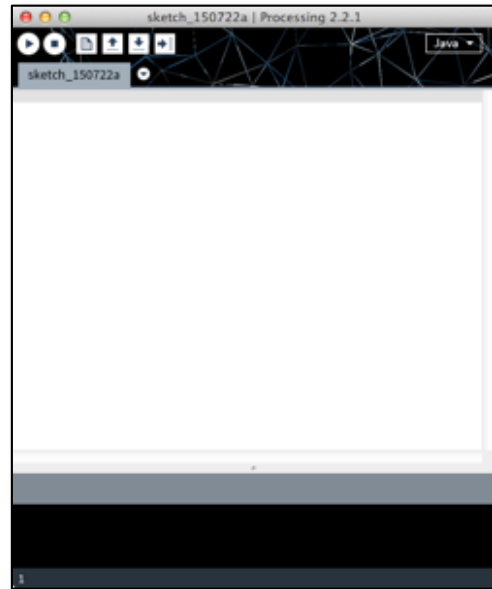
ここをチェック



2. プログラミングを体験してみよう

Step2-1. Processingの起動

とにかく、まず動かしてみよう！
先ほどと同様にして、
Processingを立ち上げてみよう。

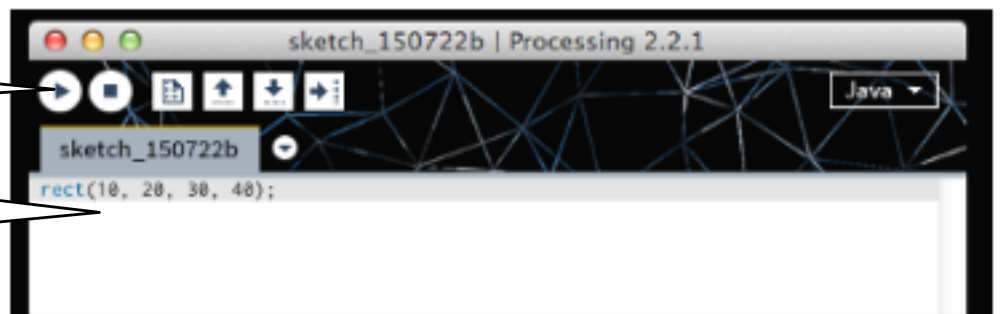


Step2-2. 四角形を表示

先ほど起動したウィンドウの入力部分①に次のプログラムを入力して、
実行ボタン②を押してみよう。

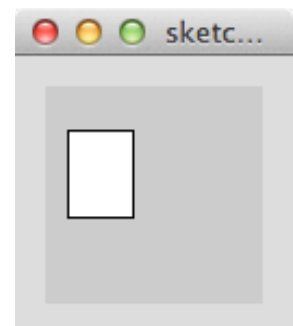
②実行ボタン

①プログラムを
書く



```
rect(10, 20, 30, 40);
```

すると、次のようなウィンドウが表示されます。
これで「初めてのプログラム」が完成しました。

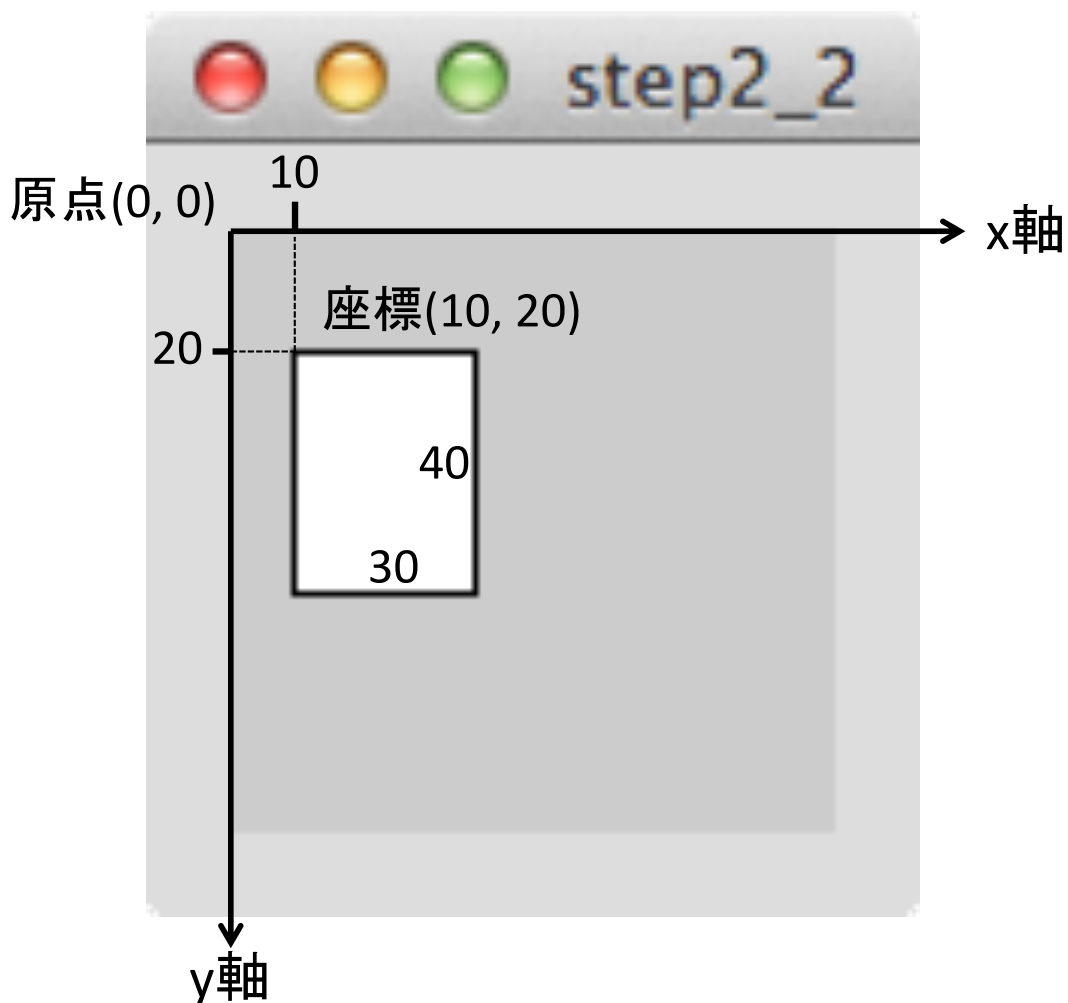


Step2-3. プログラムの意味を理解しよう

このプログラムの意味は次のようになります。

```
rect(10, 20, 30, 40);
```

rect(四角形の左上頂点のx座標,
四角形の左上頂点のy座標,
四角形の横(x方向)の長さ,
四角形の縦(y方向)の長さ);



y軸は正負の向きが違うので注意.
下方向がプラスになります

問題2-1 座標(25, 50)に, 横が40, 縦が5の長方形を描いてみよう

解答はanswer2_1

Step2-4. 変数を使えるようになろう

好きな名前の変数を作って、数値を格納することができる。

```
int len;  
len = 50;  
rect(10, 20, len, len);
```

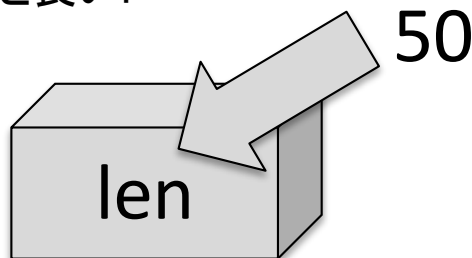
`int len;`

この1行で、プログラム内部に数値を格納できる箱ができる。変数の名前は自分で決めることができる。

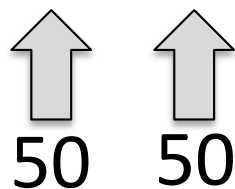


`len = 50;`

この1行で、変数に数値を格納する。“=”の記号は数学の等号ではなく、値を代入する意味である。“←”の矢印だと思うと良い。



`rect(10, 20, len, len);`



変数lenには50が入っていて、呼び出して何度でも使うことができる。

問題2-2 座標(50, 10)に、1辺が100の正方形を描いてみよう

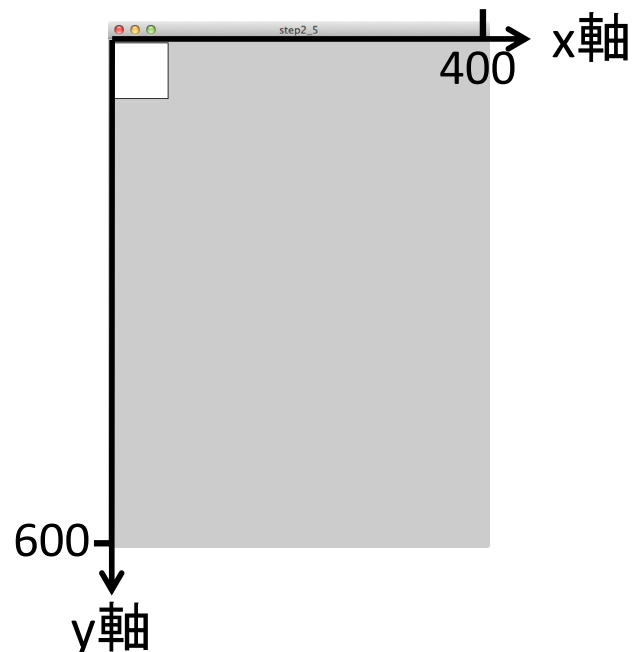
解答はanswer2_2

Step2-5. 画面のサイズを変えよう

```
size(400, 600);  
int len;  
len = 100;  
rect(50, 10, len, len);
```

```
size(400, 600);
```

画面の横（x方向）が400,
縦（y方向）が600になる.

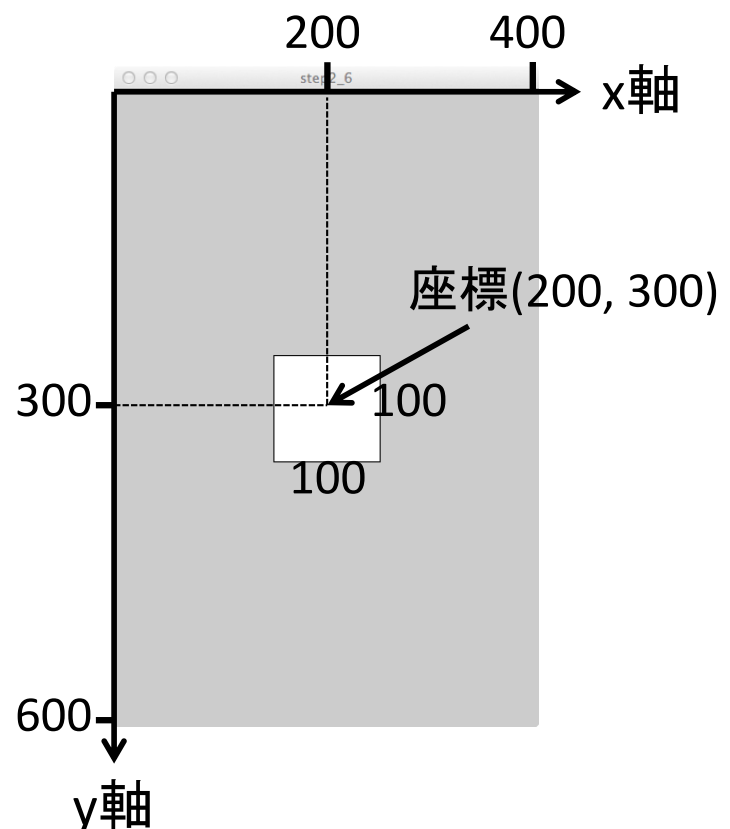


Step2-6. 表示モードをセンターにしよう

```
rectMode(CENTER);  
size(400, 600);  
int len;  
len = 100;  
rect(200, 300, len, len);
```

```
rectMode(CENTER);
```

四角形の中心が、指定した座
標になる.



Step2-7. 画像を表示しよう

```
PImage shipImg;  
size(400, 600);  
imageMode(CENTER);  
shipImg = loadImage("ship.png");  
image(shipImg, 80, 300);
```

PImage shipImg;

PImage型の変数を宣言し、その変数名をshipImgとした。

imageMode(CENTER);

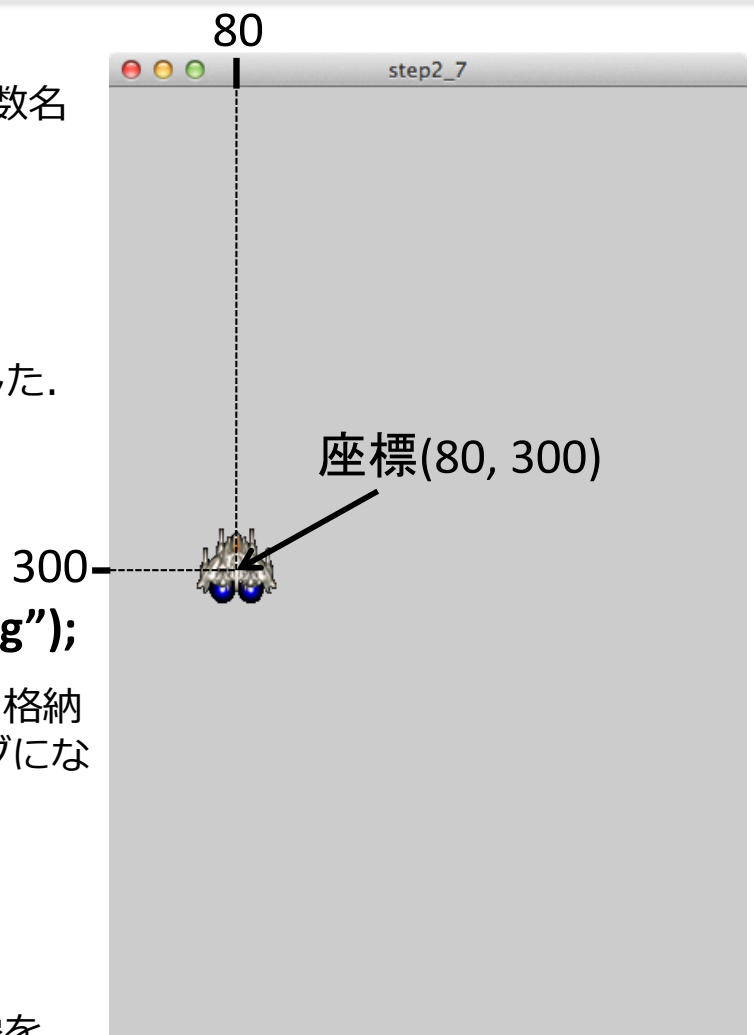
画像の座標指定を、画像の中心にした。

shipImg = loadImage("ship.png");

画像を読み込んで、変数shipImgに格納した。読み込む画像はdataフォルダになければならない。

image(shipImg, 80, 300);

変数shipImgに格納されている画像を、x座標80, y座標300を中心として画像を表示する。



問題2-3 座標(200, 450)に、自機を表示してみよう。このとき自機のx座標をshipX, y座標をshipYとして変数を用意し、これらの変数を使って表示してみよう。

解答はanswer2_3

3. プログラミングに慣れよう

Step3-1. 画像を動かしてみよう

ゲームはパラパラ漫画です。実は、1秒間に60枚の画像をパラパラめくりながら動いているように見せています。

```
PImage shipImg;  
int shipX;  
int shipY;
```

→ 全体で使う変数を宣言

```
void setup() {  
  size(400, 600);  
  imageMode(CENTER);  
  shipImg = loadImage("ship.png");  
  
  shipX = 200;  
  shipY = 450;  
}
```

→ 実行した時に、最初に一度だけ行う。ここで、ウィンドウサイズや画像の読み込みを済ませておく。

```
void draw() {  
  shipX = shipX + 3; // 右に移動  
  image(shipImg, shipX, shipY);  
}
```

→ 何度も繰り返す部分。ここにゲームの中身を書いていく。

shipX = shipX + 3;

現在の自機のx座標に3を足す。そして、足した値をshipXに代入する。



これで自機が動く。
しかし、ちょっと表示がおかしい...

Step3-2. 背景を書こう

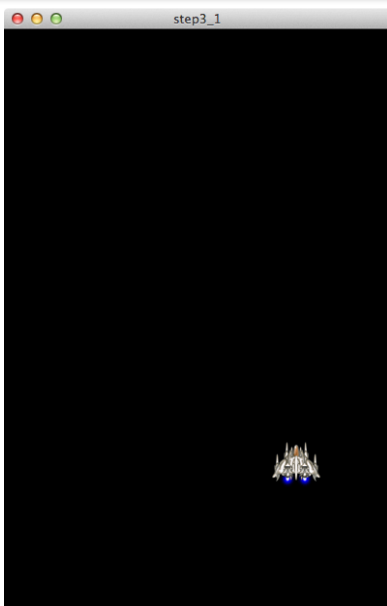
画面を表示するときに、毎回背景を書いて、画面を黒く塗りつぶすと自機が動いているように見える。

```
PImage shipImg;  
int shipX;  
int shipY;  
  
void setup() {  
  size(400, 600);  
  imageMode(CENTER);  
  shipImg = loadImage("ship.png");  
  
  shipX = 200;  
  shipY = 450;  
}
```

```
void draw() {  
  background(0);  
  shipX = shipX + 3; // 右に移動  
  image(shipImg, shipX, shipY);  
}
```

→ 何度も繰り返す部分。
→ 繰り返すときに、背景を黒く塗りつぶす。これで、前回書いた自機を塗りつぶすことになるので、正しく動いているように見える。0が黒、255が白になる。

しかし、自機が画面の外に行ってしまう...



Step3-3. if文を使えるようになるよう

条件に応じて動作が変化するようにしてみよう.

```
void draw() {  
    background(0);  
    if (shipX<400) {  
        shipX = shipX + 3;  
    }  
    image(shipImg, shipX, shipY);  
}
```

もし, shipXの値が400未満なら, { から } までの中身を実行する.

しかし, 右端で止まってしまう. . .

Step3-4. 自機をマウスで動かしてみよう

マウス入力を受け取ってみよう.

```
void draw() {  
    background(0);  
    shipX = mouseX;  
    shipY = mouseY;  
    image(shipImg, shipX, shipY);  
}
```

mouseX, mouseYでマウスが画面内にあるときの座標を読み取ることができる.

4. 簡単シューティングゲームを作ってみよう

Step4-1. 弾を打ってみよう

```
PImage shipImg;  
int shipX;  
int shipY;
```

```
PImage laserImg;  
int laserX;  
int laserY;
```

→ 弾の画像, x座標, y座標を格納する変数を宣言する.

```
void setup() {  
  size(400, 600);  
  imageMode(CENTER);  
  shipImg = loadImage("ship.png");  
  laserImg = loadImage("laser.png");  
}
```

→ 弾の画像を読み込む.

```
void draw() {  
  background(0);  
  shipX = mouseX;  
  shipY = mouseY;  
  image(shipImg, shipX, shipY);  
  
  if (mousePressed == true) {  
    laserX = shipX;  
    laserY = shipY;  
  }  
  image(laserImg, laserX, laserY);  
  laserY = laserY - 5;  
}
```

→ もし, マウスが押されたら

→ 弾の座標を, 自機の座標からコピーする.

→ 表示した後, 弾のy座標を-5する.

しかし, 弾が画面にあるときに, 発車すると途中で消えてしまう.

Step4-2. 弾が途中で消えないようにする

```
PImage shipImg;  
int shipX;  
int shipY;
```

```
PImage laserImg;  
int laserX;  
int laserY;
```

```
int laserAlive; // 弾が画面にあるとき1, ないとき0にする
```

```
void setup() {  
  size(400, 600);  
  imageMode(CENTER);  
  shipImg = loadImage("ship.png");  
  laserImg = loadImage("laser.png");  
}
```

```
// laserAliveが1のとき存在する. 0のとき存在しない.  
laserAlive = 0;
```

```
void draw() {  
  background(0);  
  shipX = mouseX;  
  shipY = mouseY;  
  image(shipImg, shipX, shipY);
```

```
  if (mousePressed == true) {  
    // 画面内に弾が存在しないなら発射
```

```
    if (laserAlive == 0) {
```

```
      laserX = shipX;
```

```
      laserY = shipY;
```

```
      laserAlive = 1; // 発射したので, 1にする
```

```
    }  
  }  
  image(laserImg, laserX, laserY);  
  laserY = laserY - 5;
```

```
  // 弾が画面の外に出たら, レーザーを消す
```

```
  if (laserY < 0) {  
    laserAlive = 0;  
  }
```

```
}
```

弾が画面にあるのに, 再び弾を発射できることが原因である。

そこで, 画面に弾があるときには, 弾を発射できないようにすれば良い。

そのために, laserAliveという変数を用意する。これは, フラグと呼ばれるものである。

フラグが立っているかどうかで処理を変更する。

laserAliveが1のとき, 画面に弾が存在し, 0のとき存在しないことを示す。

弾が存在しない時だけ, 弾の座標を自機の座標をコピーできるようにすればよい。

そして, 弾が発射されたことにするためにlaserAliveを1にする。

さらに, 画面の外に弾が出たら, 再び弾を発射できるようにしなければならない。

そこで, 弾のy座標が0未満になったら, laserAliveを0にして, 弾が画面内に存在していることにする。

Step4-3. 敵を出現させてみよう

```
PImage shipImg;  
int shipX;  
int shipY;
```

```
PImage laserImg;  
int laserX;  
int laserY;  
int laserAlive;
```

```
PImage enemyImg; // 敵の画像  
int enemyX; // 敵のx座標  
int enemyY; // 敵のy座標
```

これまでと同様に、敵の画像と座標を用意する。

```
void setup() {  
  size(400, 600);  
  imageMode(CENTER);  
  shipImg = loadImage("ship.png");  
  laserImg = loadImage("laser.png");  
  enemyImg = loadImage("enemy.png"); // 敵の画像を読み込む  
  laserAlive = 0;  
}
```

敵の画像を読み込む。

```
void draw() {  
  background(0);
```

```
  // 敵を表示
```

```
  enemyX = 200;  
  enemyY = 80;  
  image(enemyImg, enemyX, enemyY);
```

敵の画像を表示する。

しかし、動かない...

```
  shipX = mouseX;  
  shipY = mouseY;  
  image(shipImg, shipX, shipY);
```

```
  if (mousePressed == true) {  
    if (laserAlive == 0) {  
      laserX = shipX;  
      laserY = shipY;  
      laserAlive = 1;  
    }  
  }  
  image(laserImg, laserX, laserY);  
  laserY = laserY - 5;  
  if (laserY < 0) {  
    laserAlive = 0;  
  }  
}
```

Step4-4. 敵を動かしてみよう

ここからは、プログラムは必要な部分だけ抜き出して説明します。

```
PImage enemyImg;
int enemyX;
int enemyY;
int enemyAlive; // 敵が画面にあるとき1, ないとき0にする

void setup() {
  size(400, 600);
  imageMode(CENTER);
  shipImg = loadImage("ship.png");
  laserImg = loadImage("laser.png");
  enemyImg = loadImage("enemy.png");

  laserAlive = 0;
  enemyAlive = 0; // 1のとき敵が画面内に存在する. 0のとき存在しない.
}

void draw() {
  background(0);

  // 敵を表示
  // 敵がいらないなら
  if (enemyAlive == 0) {
    enemyX = 200;
    enemyY = -100;
    enemyAlive = 1;
  }
  // 敵がいるなら
  if (enemyAlive == 1) {
    image(enemyImg, enemyX, enemyY);
    enemyY = enemyY + 1;
  }
  // 敵が画面の外に出たら
  if (enemyY > 800) {
    enemyAlive = 0; // 敵を消す
  }

  shipX = mouseX;
  shipY = mouseY;
  image(shipImg, shipX, shipY);
}
```

弾のときと同様に、画面にあるかどうかのフラグを用意する。

最初は敵が存在しないので、enemyAliveを0にしておく。

もし、敵がいらないなら、敵を出現させる。
敵のy座標を-100にしているのは、画面外の上から現れるようにするためである。
敵の存在フラグを1に変える。

もし、敵がいるなら、移動させる。

もし、敵が画面下の外側に出たら、敵を消す。

以下、省略。

Step4-5. 敵と弾の当たり判定を行ってみよう

```
void draw() {  
  background(0);  
  
  if (enemyAlive == 0) {  
    enemyX = 200;  
    enemyY = -100;  
    enemyAlive = 1;  
  }  
  
  if (enemyAlive == 1) {  
    image(enemyImg, enemyX, enemyY);  
    enemyY = enemyY + 1;  
  }  
  
  if (enemyY > 800) {  
    enemyAlive = 0;  
  }  
  
  // 敵と弾の中心座標間の距離が30未満なら  
  if (dist(enemyX, enemyY, laserX, laserY) < 30) {  
    enemyAlive = 0; // 敵を消す  
  }  
}
```

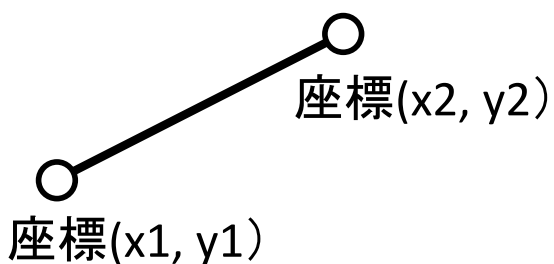
以下、省略。

敵と弾の距離をdist()を使って測る。もし、その距離が30未満なら、敵の存在フラグを0にして敵を消す。30が小さければ当たり判定が厳しくなり、大きければ甘くなる。

ただし、敵を倒した後の弾が消えない...

dist(x1, y1, x2, y2);

座標(x1, y1)と座標(x2, y2)の距離を測る



Step4-6. 敵を倒した後の弾も同時に消してみよう

```
void draw() {  
  
  // 弾が存在するなら  
  if (laserAlive == 1) {  
    // 敵と弾の中心座標間の距離が30未満なら  
    if (dist(enemyX, enemyY, laserX, laserY) < 30) {  
      enemyAlive = 0; // 敵を消す  
      laserAlive = 0; // 弾を消す  
    }  
  }  
}
```

laserAliveを0にすれば表示を消すことができる。ただし、laserXとlaserYの値は、敵を倒した場所に残る。

そこで、さらにif文「弾が存在するなら」を追加する。

これにより、見えない弾と敵との距離が30未満でも、弾が存在しない状態なら敵を消さない、ということになる。

しかし、真ん中からしか敵が出現しない...

Step4-7. ランダムに敵が出現するようにしてみよう

```
void draw() {  
  background(0);  
  
  if (enemyAlive == 0) {  
    enemyX = (int)random(400);  
    enemyY = -100;  
    enemyAlive = 1;  
  }  
}
```

(int)random(400)で、0から399までの整数値がランダムに生成される。

Step4-8. 敵の移動速度をランダムにしてみよう

int moveY; // 敵のy軸の移動方向

```
void draw() {  
  println(enemyX, enemyY);  
  if (enemyAlive == 0) {  
    moveY = (int)random(10) + 1;  
  }  
  if (enemyAlive == 1) {  
    enemyY = enemyY + moveY;  
  }  
}
```

(int)random(10)で0から9までの乱数。それに1を足すので、1から10の乱数になる。

もし、1を足さず、0から9の乱数だと、たまたまmoveYが0になってとき、敵が移動しなくなってしまう。

コンソール(エディタの下部)に値を表示する。

moveYに応じて、移動させる。

Step4-9. 完成した簡単シューティングゲームを確認しよう

```
// 自機
PImage shipImg; // 自機の画像を格納する変数を宣言
int shipX; // 自機のx座標の変数を宣言
int shipY; // 自機のy座標の変数を宣言

// 弾
PImage laserImg;
int laserX;
int laserY;
int laserAlive; // 弾が画面内に存在するかどうかのフラグ

// 敵
PImage enemyImg;
int enemyX;
int enemyY;
int enemyAlive;
int moveY; // 敵のy軸の移動方向

//-----
// ゲーム起動時に1度だけ実行する
//-----
void setup() {
  size(400, 600); // 画面サイズを400 x 600の長方形にする
  imageMode(CENTER); // 画像座標の指定方法を中心に設定

  // 画像を読み込む
  shipImg = loadImage("ship.png");
  laserImg = loadImage("laser.png");
  enemyImg = loadImage("enemy.png");

  // 存在する場合1, 存在しない場合0にする
  laserAlive = 0;
  enemyAlive = 0;
}

//-----
// ゲーム実行時に1秒間に60回画面が更新される
//-----
void draw() {
  background(0); // 画面クリアー(画面を黒を塗りつぶす)

  println(enemyX, enemyY); // 敵の座標をコンソールに出力

  //-----
  // 敵の処理
  //-----
  // 敵が画面内にいないなら, 出現させる.
  if (enemyAlive == 0) {
    enemyX = (int)random(400);
    enemyY = -100; // 画面の外から現れるようにするため
    enemyAlive = 1;
    moveY = (int)random(10) + 1; // 1から10の乱数を生成
  }
```

```
// 敵が画面内にいるなら, 表示させる
if (enemyAlive == 1) {
  image(enemyImg, enemyX, enemyY);
  enemyY = enemyY + moveY; // moveYに応じて移動させる
}

// 敵が画面下の外側に出たら敵の存在フラグを0にして消す
if (enemyY > 800) {
  enemyAlive = 0;
}

// 弾が存在するなら,
if (laserAlive == 1) {
  // 敵と弾の中心座標間の距離が30未満なら
  if (dist(enemyX, enemyY, laserX, laserY) < 30) {
    enemyAlive = 0; // 敵を消す
    laserAlive = 0; // 弾を消す
  }
}

//-----
// 自機の処理
//-----
shipX = mouseX;
shipY = mouseY;
image(shipImg, shipX, shipY);

//-----
// 弾の処理
//-----
if (mousePressed == true) { // マウスが押されたら,
  if (laserAlive == 0) { // 画面内に弾が存在しないなら弾発射
    laserX = shipX; // 弾の座標は自機の座標からコピーする.
    laserY = shipY;
    laserAlive = 1; // 今, 弾を打ったので, フラグを立てる.
  }
}

// 弾が画面内にいるなら, 表示させる
if (laserAlive == 1) {
  image(laserImg, laserX, laserY);
  laserY = laserY - 5; // 上に移動
}

// 弾が画面上の外側に出たら弾の存在フラグを0にして消す
if (laserY < 0) {
  laserAlive = 0;
}
}
```

5. 本格シューティングゲームを改造してみよう

この調子でシューティングゲームを作り込んでいけば、本格シューティングゲームが出来上がります。しかし、完全なシューティングゲームを作成するには時間がない！

そこで、改造を行ってみましょう。

プログラミング学習として、ソースコードを読んで理解し、改造するというやり方は非常に良い方法です。チャレンジしてみよう！

1. 自機がy軸方向も動けるようにしてみよう

2. レーザーの速度を変えてみよう

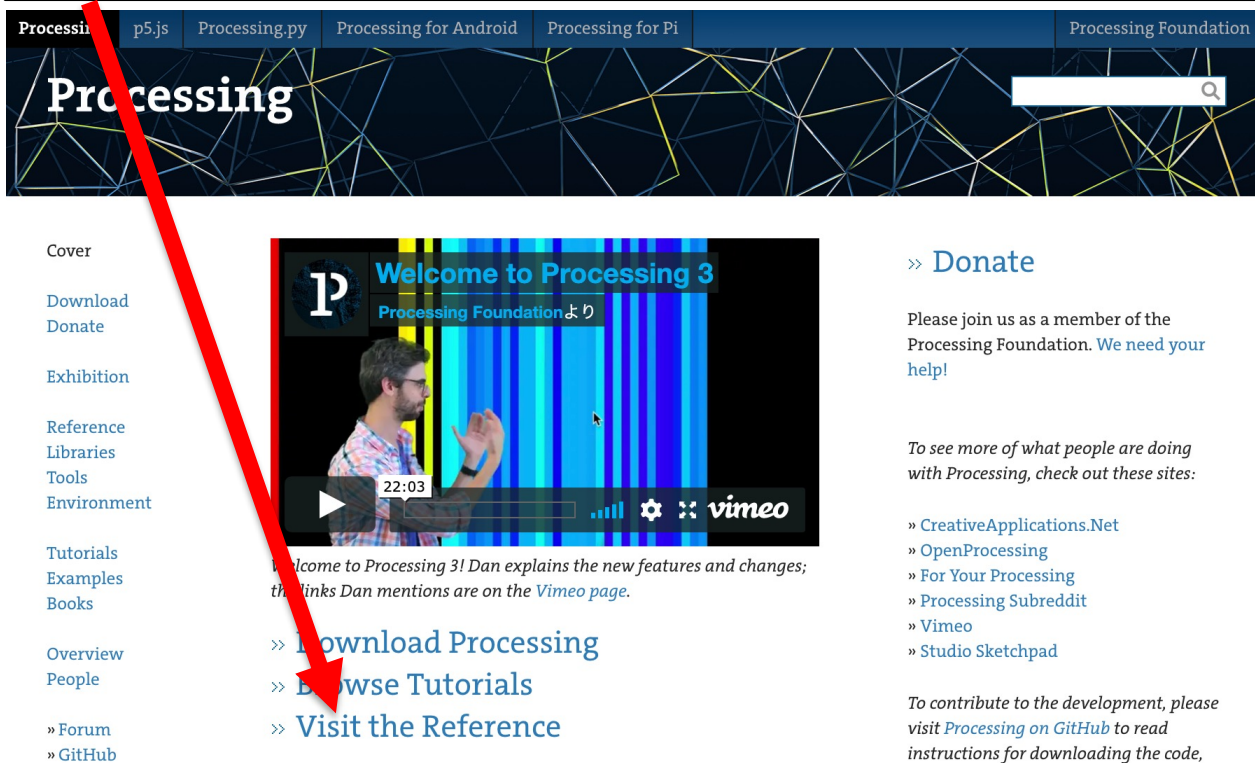
3. 敵を倒した時の得点を変えてみよう

4. 弾の数を増やしてみよう

5. 敵の数を増やしてみよう

Processingのインストール

1. <https://processing.org/> にアクセスして, Download Processing をクリック.



2. Windows (64bit) をクリックして, zipファイルをダウンロード. 解凍して実行する.
(パソコンのOSに応じて選択する)



・ サンプルプログラムの紹介

1. 体験入学で使った教材

<https://tinyurl.com/kisarazu-taiken>

もし、繋がらなかったら、下のURL

<https://www.dropbox.com/sh/dh1owq8xfeqco5o/AAB-J04asDSIfTZyx6PknrqJa?dl=0>
(途中にある「...DSIfT...」と「a?dl=0」の「l」は小文字のLです)



2. 情報工学科のホームページ

<http://www.kisarazu.ac.jp/gakka/information/>

(木更津高専のホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/> から、学科・専攻科紹介を辿って行けます)



3. 体験入学で作成したシューティングゲームの実況プログラミング

<http://youtu.be/W8FQhGHLIC4>

・ 参考文献

1. “Processing アニメーションプログラミング入門”, 田中孝太郎, 技術評論社, 2011.

2. Processingのサイト, <https://processing.org>

3. フリー素材画像

(現在サイトがなくなっている. 2015年時点に下記サイトのフリー素材を使用した.)

<http://game.yu-nagi.com/index.htm>

<http://homepage2.nifty.com/hamcorossam/>